企業の志魂（こころ）

あ志企
人に人
歴史に

Vol. 1010

―橘 三朗―

160年の時空を越えて 進化し続けるパイオニア

（唐の李世民）が「創業と守成、いずれが難きか」と問うた。天下平定に苦しんだ老将・房玄齢は即座に「創業です」と答え、内政の安定による国家の基礎づくりに励んだ魏徴は「創業は易く、守成は難し」と答えた。李世民は「どちらももっともなり。しかし創業の時を過ぎたとて守成の期には易々と到らぬ。日々慎んで創業の精神で当たるべし」と諭したという。企業も日々創業の精神で臨みたいもの。

黒田機器㈱（代表取締役・黒田 栄次郎氏）は、嘉永元年（1848年）武具甲ちゅはその技術を基軸に、船舶、車両などのシャフトやネジの精密加工に伝統を受け継ぎ、今21世紀にあっても脈々と時代の要求に応えて進化し続けてきている。業界のパイオニアとして常に新しい技術を導入し、産業機器の基礎である素材部品の精密性や品質の向上を研鑽。長い歴史を踏まえながら、決してその歴史に甘え頼るのではなく、また新たな歴史を創るという気概の社風業の時を過ぎたとて守成の期には易々と到らぬ」とばかり、チャレンジ精神も旺盛だ。北海道から九州にいたる国内全域はもちろんのこと、オーストラリア、キューバ及び東南アジア一帯にまで製品を供給。創業以来育んできた技術へのこだわり、誠心誠意の信頼は、160年という時空を越えて日本と世界にその確かさを伝え培い、揺るぎない。

千代田区神田須田町2・13

ロック・ストアハウス 〃移行〃の業界第一人者 一歩先を行く「水の如き智」

（張詠）の語りに「智はなお水の如きなり、流れざれば大事の際に臨みて、なんぞ智の来るあらんや」とある。人間の知恵とは水のようなもので、流れが止まっていてはいざとなって発想が浮かぶものではないという教えだ。人も組織も常識や慣習にとらわれず、新たな発想を続けることが大切と解釈できよう。小さくとも絶えず思考し、発想の妙を核に持つ企業ならば着実に伸展、成長するものである。

ロック・ストアハウス㈱（代表取締役・岩倉 誠彦氏）は、国内初の移行専門会社。都市銀行や証券会社などの移行を成功させている業界の第一人者だ。移行とは、企業同士が合併する際などに別々のITシステムを一本化する作業のことで、統合メガバンク誕生時のATM騒動は記憶に新しい。失敗したり、スムーズでなかったりしたら業務に影響するだけでなく、社会的信用を失墜する業務だけに、ことさら同社の実績と卓抜のマニュアルが高い評価を得ている。まさに「智はなお水の如きなり、流れざれば大事の際に臨みて、なんぞ智の来るあらんや」さながら、移行に関わる標準化やマニュアルを研鑽し続けてきたゆえの信用と言えよう。企業合併やM&Aなど、企業間の合併、統合が今後益々増加する一途であることは容易に想像がつく。同社は業界のオピニオンリーダーとして、常に一歩先を行く見識、技術、ノウハウを磨き培い、より高い成長軌道を目指す構えだ。同士たる社員の士気も熱く清々しい。

中央区日本橋小網町9・3

国際化JP 「ソフトウェアの国際化」を支援 鵠鷄深林の一枝が如き俊英

（堯という天子）が許由という賢者に天下を譲ろうとしたとき、許由は「鵠鷄深林に巣くうも一枝に過ぎず」と言って辞退したという。つまり、ミソサザイという鳥は深い林の中に巣を作るが、本当に必要なのは一枝だけ…と喝破したのだ。企業も堅実なところほど、あれもこれもと無闇に手を広げたりしない。ひとすじに専業を磨き、その強みを更に鍛えて取引先の支持をより盤石のものとしている。

国際化JP㈱（代表取締役・末廣 陽一氏）は、ソフトウェアの国際化を支援するという、日本では耳慣れない異色の領域で、その〃一枝〃を磨いてきている未来派カンパニー。複数の国や地域の文化、言語及び習慣など、個々の地域化対応（ローカライゼーション、Localization、L10N）の作業を可能な限り少なくし、共通の汎用的な部分ができるだけ多くなるように設計し開発する…これが「ソフトウェアの国際化」である。そのメリットは数多い。少ない投資で新たな国へ進出できる。発売日も早くでき、各国で同時出荷が可能。修正やアップデートもほぼ各国で同じなので、かかるコストや時間を軽減できる…等々だ。同社はまさに深林（ソフトウェア業界）にあって、一枝（国際化）をひたむきに磨き続けてきている鵠鷄の如きである。グローバルソフトウェアの開発及びマネージメントを経験してきた技術者を擁し、企画から開発、テスト、リリース後のメンテナンスまで、すべての段階で国際化の支援を行うプロ集団だ。

千代田区内神田1・1・5

アプリ 「時至って」の独立の気概 〃改造キット〃で着実な伸展

（史記・准陰侯列伝）に「時至って行わざれば、かえってその殃いを受く」とある。劉邦幕下の最大の実力者韓信に食客剽通が自立を奨めたときの言葉だ。当時韓信は劉邦、項羽に比肩し、天下を二分できるだけの力を持っていた。結局、この言を受けなかった韓信は、劉邦の功業が成った後粛清される。企業も人も天の時を得たならば迅速に対応し、その流れに乗じて一気呵成に結果を出すことが肝要だ。

㈱アプリ（代表取締役社長・伊藤 泰昌氏）は、ゲームセンターで使用される業務用ゲーム機器及びソフトウェアの企画・開発・販売を手掛けているプロフェッショナルチーム。伊藤氏が業界で培ってきた経験と人脈をベースとして、まさに「時至って」独立した気鋭の新進企業だ。ゆえに小規模だからこそできる小回りとキメの細かいサービスに力点を置き、独自の展開で着実な伸展を続けてきている。そのひとつが「改造キット」。古くなって人気が落ちてしまったゲーム機器の部品を一部交換することで、最新のゲームへと蘇らせるという領域である。リサイクルという時代の趨勢も得ており、最新機種よりもリーズナブルに購入できるとあって取引先からの支持も高い。むろん、これは同社の商品開発における卓越のコンセプトがあってこその会心。志をひとつにした社員一人ひとりとの信頼関係や、各々分野を任せきる技術力の確かさが集結しての成長と言えよう。時至って行動した気概と信念の証明である。

中央区新富1・7・6